

生物多様性とは

たくさんの種類の生きものが、お互いに関係しながら、いろいろな環境の中で、存在していることを生物多様性と呼んでいます。

身近な自然に触れて生きものに関心を持つことが大切だよ。自然を守るためにはどうすればいいのかを、考えてみよう。



生物多様性の危機

人の手によって、とても長い時間をかけて築いてきた生物多様性が危機にさらされています。愛媛県では、絶滅のおそれがある野生の動植物を調査したレッドデータブックをつくりました。その中でニホンカワウソやエヒメアヤメなど1,773種の生きものに絶滅のおそれがあるとしています。



1 ニホンカワウソ／写真提供：愛媛県立とべ動物園
2 エヒメアヤメ／撮影者：松井宏光 3 ハッチョウトンボ／撮影者：久松定智

生物多様性を守るためには

生物の多様性を守るために、自然に対する正しい知識を持ち、適度な距離で接しましょう。

- 1 野生動物にえさをあたえない
- 2 むやみに野生の植物をとらない
- 3 外来生物(本来生息していない生物)を自然の中に持ち込まない

愛媛県の取り組み

レッドデータブック

生物多様性保全のための資料としてレッドデータブックをつくっています。レッドデータブックは絶滅のおそれのある野生の動植物を選び、生息の現状や問題点などをまとめたものです。レッドデータブックは県のホームページにも掲載されています。



ごみについて

ごみを資源に活かせる？

わたしたちの家庭から出るごみは、愛媛県全体で約45万2,000トン(平成30年度)。これは、25mプールで、約3,566杯になる量です。県民一人1日あたりのごみ排出量は895グラム(全国平均は918グラム)になります。

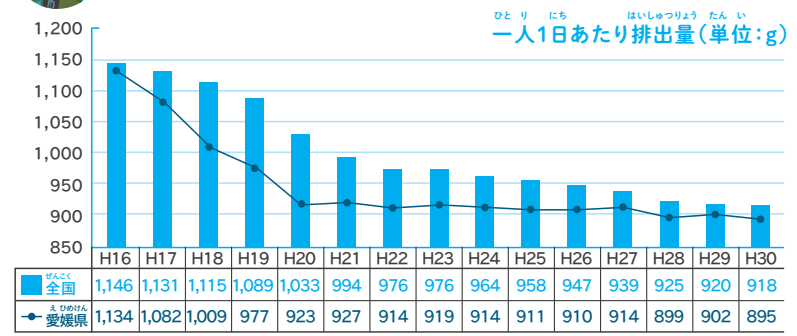


※ごみの比重0.3t/m³、小学校の25mプール：長さ25m×幅13m×深さ1.3m＝422.5m³として算定しています。



平成30年度 総排出量 約45万2千トン

県民一人1日あたりのごみの量の変化グラフ



ごみの量は毎年少しずつ減っているね。



調べてみよう!

環境にやさしいマーク

右のようなマークを見たことはありませんか。環境に配慮したつくりかたをしているものや環境にやさしいものなどに、マークがついています。身のまわりのものでマークを調べてみましょう。

